

# 台湾の桃園市におけるベトナム人コミュニティ

－ セーフティネットのあり方をめぐって －

長坂康代

キーワード：共同性、相互扶助、コミュニティ、結節点、出稼ぎ労働者

要 旨：台湾では、在住するベトナム人によって組織されたベトナム人のためのコミュニティがある。同郷会やボランティア集団などさまざまな形態があり、宗教を通じたコミュニティもできている。それらは、台湾だけでなくベトナムをつなぐ幅広い活動をおこなっている。土日になると、駅近くの歩道ではベトナム人が茶を飲むゆるい集合空間がつくられ、多くのベトナム人が集まってくる。これらは、ベトナム人が孤立しないセーフティネットになっている。

## 1. はじめに

筆者は、2017年2月23日～2月25日、7月28日～8月1日、8月6日～8月7日に桃園市にてベトナム人労働者のコミュニティを調査した。桃園市は、桃園国際空港から路線バスで1時間弱のところにある。

本稿では、まず台湾の移民受入れの歴史を現地博物館の解説を引用して述べる。次に、フィールドワーク調査と資料に基づく考察から、桃園駅裏の「東南アジア街」の飲食店や茶屋、宗教施設、同郷会、ボランティア団体といったさまざまな空間や集団組織が、台湾で働くベトナム人が孤立しないセーフティネットになっていることを述べる。そのセーフティネットから漏れるベトナム人もいるが、台湾人コミュニティに包摂されていくこ

とがあることも事例としてあげ、台湾在住ベトナム人の生活動態のエスノグラフィを、ここで初めて明らかにする。

## 2. 台湾の移民受入れの歴史

2017年3月中旬から11月上旬にかけて、台南にある国立臺灣歴史博物館では、外国人花嫁や出稼ぎ労働者を受け入れて共存していく取り組みと未来への課題を探求した企画展「東南アジア移民移工在臺灣特展」（新台客：台湾の東南アジア移民、労働者特別展）が開かれた。

台湾での移民の歴史については、国立臺灣歴史博物館の特別展を紹介する内容が詳しいので、一部編集して以下に引用する。

1990年代以降今日まで、東南アジア移民や労働者はベトナム、インドネシア、タイ、

フィリピン、カンボジア出身者が多くを占めている。來台の理由も以前のような政治的影響ではなく、仕事、学業、結婚、夢など様々な事情を抱えている。

1960年後半から70年代前半の台湾に国際結婚仲介業者が現れ、1980年代に入ると、台湾の国際結婚の数が増加した。兩岸開放による家族訪問、また東南アジアでビジネスを行ったり、駐在したりする台湾人男性の現地の女性との結婚が、台湾人と東南アジア国籍配偶者カップル増加の主因となった。1990年代以降は、台湾の経済産業の転換によって、その対応のため政策的に東南アジア労働者を導入したが、それに伴い台湾労働者男性の求職問題も増加した。また、台湾女性の自立、経済力向上によって、台湾の男性が仲介業者を通じて、中国、香港、マカオ、東南アジア各国に結婚相手を求めるようになった。外国人配偶者が台湾社会に多く誕生し、台湾の婚姻構造にも新たな変化をもたらした。

2016年11月時点で、台湾の外国出身、外国籍配偶者の数は52万人を突破している。大陸、香港、マカオ出身が35万人、東南アジアが14万人、残りはその他の国となっている。東南アジア諸国のうち、ベトナムが9万6000人で最多、次いでインドネシア、タイが続いている。

こうして、台湾の外国籍労働者にはブルーカラー、ホワイトカラーともにいるが、ブルーカラーの労働者は東南アジア出身者が多くを占めている。1970年末の労働市場の人手不足により、1989年に初めてタイからの外国人労働者を受け入れた。その後企業の需要は高まり、政府も受け入れ業種を拡大していった。「補充性労働力」の名の下に、出身国・台湾両地の仲介業者を通じて來台し、肉体的負担が大きく就業時間の長い仕事に従事している。

この数年で、台湾の至る所で彼ら労働者の姿が見られるようになった。各地の主要駅

は、休日になると外国人労働者が同郷の友人と交流するスポットになっている。61万人以上のブルーカラーの人々は、その多くがインドネシア、ベトナム、フィリピン、タイ出身者で、建設現場、農業、漁業、製造業等伝統産業や電子産業の発展に貢献、また社会福祉サービスの分野でも安定した労働力を供給している。また6万人余りのホワイトカラーは、台湾各地でそのプロフェッショナルな能力を発揮している。

1990年代以降、台湾の東南アジア移民や労働者の数は飛躍的な成長を遂げてきた。需要が人口を押し上げ、その需要によって法律の制定を促し、法律改定によってその定員も徐々に拡大されてきた。しかし、それに伴い様々な人権や公平正義の問題も発生している。そこで民間では台湾国際労働者協会(TIWA)や台湾国際家庭互助協会(TIFA)等の団体が誕生した。これによって、移民と外国人労働者の地位向上を支援し、政府の対応を促し、抗議行動と政策・法規の変遷とが相互に影響しあっている。(以上、筆者による編集を伴う引用)

では、桃園市ではどうだろうか。「内政部統計處」によれば、2012年、桃園県の外国人数は51,369人で、全国の割合の10.9%を占めている。新北市が19.2%、台北市11.1%、高雄市11.8%に次いで4番目の多さである。

2013年8月の時点では、桃園県の外国人の割合は、大陸(中国)が32,575人(割合62%)、次いでベトナムが8,574人(同16.3%)、インド4,418人(同8.4%)、タイ2,233人(同4.2%)、フィリピン1,394人(同2.7%)、香港1,181人(2.2%)、トルコ1,895人(同0.6%)、その他1,895人(3.6%)であった。この数字から、ベトナム国籍が多いことがわかる。

2017年7月にはベトナム雑誌「Hello! Việt Nam (越南你好)」が発行された。創刊号の7月号のみ無料で、それ以降の発行は、1冊

50円で販売されている。中はベトナム語と中国語で書かれており、ベトナム人にも台湾人にも読むことができる有料雑誌である。ベトナム人がスマートフォンを活用してSNSで情報収集する時代に、フリーペーパーまではいかないが、このような紙媒体が発行されるようになったのは、それだけベトナム人が多いことを表しているといえる。

### 3. 桃園の「東南アジア街」と茶屋コミュニティ

#### 3-1. 桃園の「東南アジア街」

桃園駅の表には、遠東百貨店や新光三越などの百貨店や日本の飲食店が立ち並ぶ、賑やかな街並みである。一方、駅裏は、駅からまっすぐ延びる通りである延平路を中心に、ベトナム、インド、タイ、インドネシアの店が立ち並ぶ「東南アジア街」になっている（表1は延平路沿いの店舗のみ一部記載した）。この東南アジア街は、インド、インドネシア、タイなど西アジア、東南アジアの表記が目立つ。ベトナムは、飲食店や美容院、スマートフォン販売、食品販売、など業種が多様である。飲食店の多くは、台湾人と結婚したベトナム人女性が経営しているため、店主の女性は中国語が流暢である。飲食店（表1／17番、18番、23番、30番）は、平日は閑散としているが、土日になるとベトナム人客で満席になる。カラオケがセットされていて、食事を楽しむというより、歌うために来る者が多い。桃園は工場や店舗が多いので、ベトナム人の働き口がある。

空港と港に近い桃園では、台湾人の日雇い労働者が仕事にあぶれて路上生活をしていることも多い。桃園駅の表と裏をつなぐ地下道は風が通らず暑苦しいが、路上生活者が段ボールを敷いて横になっていたたり、モノを売ったりする人たちでごった返す生活空間になっている。

なかには、桃園駅を出た歩道で、目立つ蛍

光オレンジ色のビブスを着用して雑誌『ビッグイシュー台湾』を数冊手に持ち、通り過ぎる人びとに積極的に声をかける男性がいる。ビッグイシューを販売できる人は生活困窮者でも限られており、販売するにも定まった位置がある。販売する者が互いの領域を侵さないためである。日本では、1冊350円で販売すると180円が販売者の収入になるが、台湾では、1冊100元（約300円）で、販売をすることで50元（約150円）が、販売者の収入になる仕組みになっている。桃園では男性が積極的に活動するので、短時間でも数冊売られていた。桃園では、ベトナム人が働き、台湾人が仕事にあぶれている。

工場で働き給与を得ているベトナム人が、桃園駅周辺で路上生者にモノや現金をねだられることもある。50代の台湾人男性Aは、土日にベトナム人が桃園駅周辺でたむろすると、桃園駅の地下道を通って、表と裏を歩き来して、ベトナム人青年たちに声をかける。路上の茶屋でお茶を飲むベトナム人青年には、タバコをねだった。青年がタバコをずっと1本差し出すと、Aは当然のように受け取った。次に、Aは遠東百貨店の前で座っているベトナム人青年3人に金銭を要求したが、それは断られた。しかし、それに懲りずにまた別のベトナム人に声をかけていった。

出稼ぎ労働者として、工場などで固定給をもらうベトナム人は、台湾の日雇い労働者や路上生活者よりも恵まれているのである。



写真1 東南アジア街（2017.2.23）

(4) 台湾の桃園市におけるベトナム人コミュニティ

表1 桃園駅裏の「東南アジア街」の一部（長坂康代作成）

番号	国名	店舗名	業種
1		閉店	
2		閉店	
3	ベトナム	Quán Ăn Việt Nam NHƯ QUYNH	飲食店
4	ベトナム		美容院
5	インド	SARI RASA 印尼小吃	食品販売
6		閉店	
7	台湾	小江早餐吧	飲食店
8	台湾	金正好吃 桃園延平店	飲食店
9	台湾	公益彩券	台湾スポーツロト
10		家屋	
11	台湾	亜州檳榔	
12	台湾	哲明堂正命相館	
13	ベトナム	JR SALON 飛髪足絲沙龍	美容院
14		家屋	
15	インドネシア	R.M IRASA 100%HARAL	レストラン
16		閉店	
17	6F	弘昌移民服務有限公司	
	5F	菜菜子髪の湖造	
	4F	多元藝術教室	
	3F	(なし)	
	2F	活水教会	キリスト教会
1F ベトナム	Quê Hương	飲食店	
18	ベトナム	Quán Ăn GIA LINH 越郷小吃	飲食店、婚姻衣装貸し出し
19	ベトナム	Lady Shop	衣類販売、美容院
20	ベトナム	Tiền Tóc Mai Hằng 梅姪美髮店	美容院
21	インド	DEPOT INDAH	飲食店
22	台湾	后站	飲食店
23	ベトナム	Quán Ăn Thái Bình 阿美小吃店	飲食店
24	ベトナム	VietNamShop39	衣類販売
25	台湾		美容院
26	インド	INDOSTAR	食材
27	台湾	候車早餐	
28	タイ		雑貨・食品販売
29	2F	堅信教会	キリスト教会
	1F ベトナム	MAN STRONG STORE	
30	2F タイ		タイ式マッサージ
	1F ベトナム	Quán Ăn Việt Nam Hạ Long	飲食店
31	台湾		美容院
32	台湾		ロト
33	ベトナム	Ausan Ăn HAI MIỀN 南中北越小吃	飲食店
34	ベトナム	南洋百貨・VNEX	多国籍食品、雑貨、運送代理
35	ベトナム	VNEX	換金、スマホ、運送代理
36	インド	RATNA SARI	飲食店
37	インドネシア	BNI EXPRESS PEN GIRIMAN UANG	
38	ベトナム	Đồng Á	換金
39	タイ	THAI FOOD 泰式永順小吃店	
40	タイ	SAWASDEE THAI RESTAURANT	飲食店
41	タイ		
42		ファミリーマート	コンビニ
駐車場、タクシー乗り場			
桃園駅			

延平路



桃園客運總站

番号	国名	店舗名	業種
43	ベトナム		ベトナム食材
44	ベトナム	SAIGÒN BÁCH HÓA	ベトナム食材
45	台湾	台湾色杯子 KALA KAP	飲料
46	台湾	綺綺屋	雑貨
47	ベトナム		ベトナム
48	ベトナム	麻將	美容院
49	ベトナム		スマートフォン
50	ベトナム	小米	スマートフォン

51	ベトナム	DongAn	ベトナム食材販売
52	台湾	美芝城 GOOD MORNING	パン屋
53		セブンイレブン	コンビニ
54		威昌國際有限公司	

地下道出入口

### 3-2. 桃園の路上茶屋コミュニティ

土日になると、桃園駅周辺には、多くのベトナム人が集まってくる。遠東百貨店前の路上でもベトナム人数人が、路上に座ってSIMカード販売をおこなう。ベトナム食材店（表1 / 44番）は、土日には店の前の歩道で野菜や果物を販売したり、おこわや餅をパックに入れて販売したりする。ベトナム式総菜パンは、パンを温める機械を路上に置いて、その場で客のリクエストに合わせてパンに食材を入れていく。土日には、それだけベトナム人が多く出歩いているということである。

土日には、スマートフォン販売会社（表1 / 54番）、美容院（同48番）、衣料販売店（同24番）の前で路上の茶屋が開かれる。路上の茶屋では、冷たい茶1杯が30元（約90円）である。セブンイレブンで販売しているパックの茶（200ml）が10元、マクドナルドのホットコーヒーが33元なので、路上のベトナム茶は割高感がある。それでも、若者が集まってくる。

スマートフォン販売会社の前の茶屋は、テーブルと椅子の高さが他よりも高く、ひざ下を曲げて座る必要がない。このような形式は、3店のうちここだけである。茶の準備は夫Bの仕事である。ともに、平日は仕事をしているため、店を開くのは土曜と日曜である。この同じ場所で、台湾の50代女性が果物と果物ジュースを販売している。Bが不在のときは、この台湾女性が茶を入れて手伝えることもある。Bは、茶の提供以外にも、スマートフォンの最速4GのSIMカードを手を持って、通行客に売り込んでいる。ときには、妻Cが主に担当するスマートフォンのSIM登録も手伝えることがある。

ここでは、緑茶だけでなく、ベトナム版レモンジュース（trà chanh）40元も提供している。また、ベトナムで同じように、ヒマワリの種やスイカの種といったつまみ、タバコも販売している。頼めば、ほかの果物ジュ-

ースも台湾女性が作って出す。利用者は、10～20代の若者が多い。なかには、ベトナムの故郷に一時帰国する前に茶屋に立ち寄った若者数名が時間をつぶしていたり、ベトナムのように待ち合わせに茶屋を利用したりする者もいた。

美容院の前の茶屋は、テーブルの高さがひざ丈ほどの低さであり、それに合わせて小さなプラスチックの椅子を並べている。美容院の20代男性従業員らが頻繁に利用する。20代の男性の利用が多く、座ってスマートフォンを触っていると、次々にベトナム人の通行客が声をかけていく。中には、茶を飲む知人に声をかけ、そのまま座って茶を注文したり、タバコを吸ったりして雑談に興じるベトナム人の若者もいる。その風景は、ベトナムの路上茶屋そのものである（写真2）。ある日は、ハイフォン出身の40代女性の接客でお茶1杯10元であったが、別の日に行くと、20代男性が接客して1杯30元であった。この適当な料金設定は、ベトナム人同士ならば気にならない。

ベトナム人の若者が開いている衣料販売店の前にも、茶屋がある。小さなテーブルに小さな茶器がいくつも置いてあり、風呂で使うような低いプラスチックの椅子もある。ハノイの茶屋そのものである。気温が上がると茶以外にもサトウキビジュースを提供する。ハノイで使うサトウキビを絞る機械があるが、こういった設備や備品は、桃園市の雑貨店で調達することが可能である。

ここは、男性衣料の販売店の店員3人が開いている。茶、コーヒー、サトウキビジュース60元のほか、タバコやつまみのひまわりの種も提供する。

ハノイと異なるのは、若者が茶屋を開いていることである。路上茶屋はベトナムの文化であり、それを若者が桃園にも持ち込んでいるのである。



写真2 ハノイの風景と変わらない茶屋の様子 (2017.8.6)

#### 4. ベトナム人を包摂するセーフティネット

##### 4-1. 信仰と宗教施設によるコミュニティ

桃園駅から徒歩7、8分のところに教会「桃園市聖母聖心天主堂」がある。ここでは、越僑が神父として活躍しているため、ベトナム人の拠り所になっている。礼拝は、月曜から土曜まで8時30分から、金曜と土曜は19時30分から、水曜は18時からおこなわれる。日曜の夜は、ベトナム語による祈りがある(表2)。

筆者が訪れた2017年7月30日は、教会の広いスペースで、10代から20代の若者が8月の夏祭りで披露するために、ダンスの練習をしていた(写真3)。ベトナム語による礼拝が始まるころには、さらに多くのベトナム人が教会に集まった。席がなくて立ったままのものもいた。ベトナム国内史上最悪の公害といわれる、ベトナムのハティン省で起きた、台湾プラスチックグループの傘下にあるフォルモサ・ハティン・スチール (Formosa Ha Tinh Steel Corporation) による海洋汚染<sup>1</sup>に反発し、抗議行動を行って投獄されたベトナム人を解放するための集会もひらかれ、募金もおこなわれた。この時、ベトナム人の若者が「共産党反対」の文字を掲げてベトナム政府への抗議を表した。桃園には、越僑の神父を中心としてベトナム人青年が集まるといふ、宗教を通じた結束力がある。

表2 桃園市聖母聖心天主堂の礼拝

曜日	開始時間	言語
月～土	8:30	
金、土	19:30	
水	18:00	
日	8:30	中国語
	10:30	英語
	16:00	中国語
	17:45	英語
	19:00	ベトナム語



写真3 礼拝の前に祭りで披露する踊りの練習をするベトナム人青年たち (2017.7.30)

##### 4-2. 同郷でつながるコミュニティ

ベトナム国内に、日本の県人会のような民間組織「同郷会」があるように、台湾にもベトナムの各省の同郷会がある。筆者は、現地調査とネット上の活動記事の分析から、在台ゲアン同郷会 (Hội đồng hương Nghệ An ở Đài Loan)、在台タインホア同郷会 (Hội Đồng Hương Thanh Hoá Tại Đài Loan)、在台タイビン同郷会 (Hội Đồng Hương Thái Bình tại Đài Loan)、在台クアンニン同郷会 (Hội đồng hương Quảng Ninh tại Đài Loan)、在台バックザン同郷会 (Hội đồng hương Bắc Giang tại Đài Loan)、在台バックニン同郷会 (Hội đồng hương Bắc Ninh tại Đài Loan)、在台ハイフォン同郷会 (Hội đồng hương Hải Phòng tại Đài Loan) の7つの省の同郷会の存在を確認した。ゲアンとタインホアはベトナム中部だが、他

はすべて北部の省である。ベトナム北部に集中するのは、その周辺からの出稼ぎ労働者が多いともいえるし、同郷の結束が高いとも考えられる。

ネット記事のゲアン新聞 (báo Nghe An) によれば、在台ゲアン省同郷会は、2012年に61人の会員で発足したが、会員数は学生と労働者を合わせて300人を超えている(2016年)。会議の開催、会員間の交流、地域の子どもたちのサッカー、春祭りの活動、海の島々を保護する活動などをおこなっている。台湾で働く数千人のゲアン省出身者の故郷への相互扶助も推進している。

また、記事 báomói によれば、在台ゲアン同郷会は、ゲアン省のズィエンチャウ、ナムダン、クアロー (Diễn Châu, Nam Đàn, Cửa Lò) 出身で、台湾で死亡した4家族と、台湾で治療を受けているクアローとドールオン (Đô Lương) 出身の2人の労働者を経済支援することにした。そして、2017年4月16日、台湾の台北、台中、台南の3か所で、資金集めのボランティア活動をおこなった。この日の活動の参加者は、主に若いベトナム人の労働者であった。日曜の休日を利用してボランティア活動に参加し、主要な駅、バス停留所、公園、レストランで通行人に声をかけ、募金をしてもらうように促した。

在台クアンニン同郷会は、2017年8月5日の日曜の朝、前面に「I ♥ Quang Ninh」の文字、背中に同郷会名と「We are Family」と書かれたTシャツを着て、桃園駅に数名が集まった(写真4)。そして、駅前からバスに乗り、1時間近くかけて林口長庚記念病院に向かった。この病院に同郷会の会員が入院しているため、休日を利用して同郷会として見舞いに行った。

このように、海外に出る者が多い地域では、同郷コミュニティをつくり、困窮者を支援する相互扶助をおこなっている。



写真4 バスに乗って病院へ向かうベトナム人の同郷集団 (2017.8.5)

#### 4-3. ボランティア精神でつながるコミュニティ

ベトナムでは、近年の経済発展により、都市と農村の経済格差が著しくなってきた。金銭を持つ者と持たざる者の差は明確であり、特に都市では拝金主義になっている。それでも、ベトナム人には「誰かのために」「共に」という社会主義国やコミュニティでの平等精神が根底に根づいている。その例が、次にあげるボランティア集団である。

記事 báomói によれば、台湾のベトナム労働者団体が、台湾在住のベトナム人労働者を支援するために、ボランティア団体「Trái tim yêu thương」(愛の心、以下、TTYT)を立ち上げた。その一人が、台湾在住ホワイトカラーのタオバン (Thảo Vân) 氏である。TTYTは、2010年から活動をしており、台湾のベトナム人労働者やベトナムの慈善事業の支援に特化している。

彼らは、台北にある孤児院にボランティア募金を寄付している。この孤児院には、1歳から4歳までの100人ほどが生活している。中には、違法労働の両親が逮捕されたり、入国管理局に放棄されたりして、行き場をなくしたベトナムの労働者の子どもたちもいる。また同記事によれば、2017年2月には、台湾の病院に脳腫瘍のために入院している40代男性に現金の寄付をおこなった。健康保険

に加入できないベトナム人労働者にとって、こういった慈善団体による援助があることが、セーフティネットになっている。

2017年8月6日(日)午前8時、桃園駅裏の路上茶屋(表1/54番)前に、ベトナム人の若者が徐々に集まり始めた。募金活動の準備をするためである。最終的に、男性8人と女性3人が集まった。彼らは、「Nhóm thiện nguyện nhưng người bạn」(友人グループボランティア:以下、「友人」という名のボランティア集団である。

募金をするに至った経緯は、次のようである。ゲアン省に住む1987年生まれの男性Nは、台風が来た時に村の貧困家庭の屋根に上って修繕をしたが、高電圧に感電して大きな傷を負った。火傷で両腕を切断したNの治療費を、Nの家族では捻出できないため、緊急で経済的な助けを要しているという連絡を受けた「友人」は、桃園駅付近で2017年8月6日に募金活動をすることにした。この日は、これ以外に、工業地域の桃園市中壠、新北市の樹林、新竹県の新豊郷で、それぞれ駅周辺での募金活動を要請した。これらの地域には、ベトナム人が集住している。そこに焦点を絞って、定収入を得ている同胞に募金をお願いするのである。

桃園駅近くの茶屋付近で「友人」として集まったベトナム人青年たちは、プラスチックの椅子に座り、段ボールで作った募金箱に赤い紙をかぶせる作業を始めた。その箱にNの名前と「chia sẻ yêu thương」(愛を共有する)と書かれた紙を貼った。手伝いに来た20代女性2人は、それぞれ100元と500元を箱に入れた。

赤い箱を作り終えるころ、通りすがりのベトナム人の20代女性が、彼らの話を聞いて100元を箱に入れた。100元は、桃園市内のベトナム料理店であれば、牛肉チャーハン1皿、牛肉フォー1杯、およそ1食の金額である。現地料理であれば、もっと安く食べるこ

とも可能である。出稼ぎのベトナム人にとって、100元を稼ぐことは容易ではない。茶屋の客がトイレのみを使う、通りのセブンイレブンでガラス越しにビールを飲みながら箱作りの様子を眺めていた台湾人の50代男性も、ベトナム人青年たちの行動に感銘して、赤色の箱に50元を入れた。

午前9時を回ったころ、茶屋で数名が揃いの黄緑色のTシャツに着替えた。そして、すでに通行客によって金銭が集まりだした箱を持ち、その場で2~3人ずつに分かれて、駅の表と裏に分かれた。ベトナム人だろうと台湾人だろうと構わず通行人に声をかけて、募金活動を始めた(写真5)。

この募金活動をしている近くで、揃いの赤いTシャツを着たTTYTが集まってきた。同じボランティア団体でも、協働することはない。TTYTは40代から50代の女性ばかりで、遠東百貨店前で布を広げて記念写真の撮影をし始めた。在台クアンニン省同郷会のメンバーもバスを待っていて、日曜の桃園駅前には、ベトナム人でごった返していた。

「友人」が募金活動をして集めた現金は、記事 báo mớiによると、8月18日午後、台湾のこの団体の代表がゲアン省のギア宅を訪問し、5,000万ドン(約25万円)とミルク1箱を届けてることに使われた。

台湾の出稼ぎ労働者が休日になるとボランティアをして、ベトナムの困窮者支援をおこなっている。有志による助け合いである。



写真5 募金活動をするベトナム人労働者  
(2017.8.5)

#### 4-4. 台湾人に包摂されるコミュニティ

桃園市の屋台は、駅の表側にあるが、ホテルや衣料販売のビルの合間の路地を入ったところに並んでいる。そのまま真っすぐ進むと、突き当りにベトナム表記の大きな看板が掲げられた食材店が2店舗、美容院が1店舗ある。夜になると、大通りの中山路にも露店が並ぶが、この路地にはベトナム人が開く店が3店舗ある。食材店や美容院の向かいにあるベトナム料理の小さな店が1店舗、もう1店舗は、すぐ近くにある。休日に駅付近に出てくるベトナム人を対象にしているため、どちらも土日しか開かない。

ハノイ料理店「河内美食館」は、ベトナム北部の料理を中心に提供している店である。店舗内の壁に料理のメニューが掲げられており、その横には助力を求める「通知」も貼られている。荷物を運び出すのが困難のため、誰もが持っているキャリーバッグをもって、Dさんの店に行って運搬を手伝ってほしいと、店主の女性の名前で来客にお願いをする張り紙である。郷土料理店が相互扶助の結節点になっている例である。

同じ通りにある、女性が2人立つと身動きがとれないほど狭い小さな屋台は、対照的に毎日開いている（写真6）。この屋台では、この空間に大型冷蔵庫を置いて、台湾料理とベトナム料理の数点をメニューに掲げている。だが、メニューの多くは作れず、「これでいいよね」と注文したものと別の料理が出てくることもある。それでも客が来るのは、他より少し安く値段設定しているからである。

この店主は、ベトナム北部のハイズオン（Hải Dương）出身の30歳女性で名前をVという。9歳の男児と実母と3人で生活している。Vは2006年に桃園に来たが、稼ぎ手は自分しかおらず、仕込みをする昼前から深夜まで、休みなしで働かないと生活ができない状況にある。この店では、ゲアン省出身の

26歳の女性Lが手伝いをしている。屋台の柱に括り付けた携帯電話でデリバリー注文を受け付けていて、主にLが出前に行っている。Vの息子の面倒は、実母がみているが、他にベトナム人と接する機会がほとんどない。

生活に追われ、教会も同郷会にも縁がなく、ベトナム人ネットワークから外れている。しかし、Vには屋台仲間がいる。隣接する屋台は、台湾人が果物ジュースを売っている。ほぼ毎日、その店の女性は、Vの店で食事を買う。時にはおかずだけ別の店で買って、白飯はVの店の炊飯器から好きなだけよそっていくこともある。足りないものがあれば、互いの店を行き来して借用し合うこともある。互いに持ちつ持たれつ関係を作っている。

Vの息子にとって、遊び場は、この屋台の通りである。Vの店の斜め前は、台湾人女性が開く、少し大きな飲食店がある。息子の夕飯は、Vが作ってLが持たせる。それを台湾人女性の店で、息子の友人と一緒に食べる。Vは中国語が流暢で、台湾生活になじんでいる。息子を通してまた、周囲と関係を築いている。

ベトナム人にとっては、台湾に多くの同胞コミュニティがあるが、それに関わることはないとしても、地域社会に包摂されていくこともできるのである。



写真6 屋台で働きながら台湾人コミュニティに包摂される女性（2017.8）

## 5. まとめ

非常に荒い初期的な調査ノートではあるが、桃園で働くベトナム人の生活動態のエスノグラフィとしては初めての考察である。

台湾に在住するベトナム人の人口は、大陸に続いて多い。そのため、台湾には全国で組織化されたベトナム人コミュニティがある。出身に基づいて築く同郷会であったり、精神的なつながりで築くボランティア集団だったりする。なかには、宗教を通して築くコミュニティもある。土日になると、ベトナムの文化を持ち込んで、通りには路上の茶屋が開かれる。茶1杯の値段は安くないが、そこは同胞が集まるゆるい集合空間で、居心地がよい。こうした場を設けることが、台湾で働くベトナム人が孤立しないセーフティネットになっている。

しかし、生活に追われて同胞との接点を持つことが困難な者もいる。台湾の生活に根ざしている分、中国語を巧みに使いこなし、台湾人と築く地域コミュニティに取り込まれていく。

今回は桃園について論じたが、同郷会、ボランティア団体は桃園だけでなく、他地域とも連携して活動している。台中は、桃園同様ベトナム人が多く集住している地域であることをすでに確認している。今後は、これらの地域で継続して調査をおこない、茶屋や同郷集団、ボランティア団体の組織内の役割分担、集会や互助の様態について、より詳細な分析やより深い考察をしていきたい。

## 参考文献

- Hello! Việt Nam, 2017.7, No.001  
 Công ty trách nhiệm hữu hạn quốc tế Linh Việt  
 104年第6週内政統計通報(103年底在我國之外籍人士)  
[http://www.moi.gov.tw/stat/news\\_content.aspx?sn=9212](http://www.moi.gov.tw/stat/news_content.aspx?sn=9212)  
 106年10月份現住人口及原住民人口數  
<http://cab.tycg.gov.tw/home>

- jsp?id=175&parentpath=0,24  
 國立臺灣歷史博物館  
[http://jp.nmth.gov.tw/exhibition\\_65\\_361.html](http://jp.nmth.gov.tw/exhibition_65_361.html)  
 桃園縣新移民概況分析  
<file:///C:/Users/Xuan/Downloads/%E6%A1%83%E5%9C%92%E7%B8%A3%E6%96%B0%E7%A7%BB%E6%B0%91%E6%A6%82%E6%B3%81%E5%88%86%E6%9E%90.pdf>  
 báo mới (TTYT)  
<https://www.baomoi.com/lao-dong-viet-o-dai-loan-am-long-noi-dat-khach/c/21629938.epi> (2017年10月20日閲覧)  
 báo mới (在台ゲアン同郷会)  
<https://m.baomoi.com/hoi-dong-huong-nghe-an-o-dai-loan-quyen-gop-giup-nguoi-gap-nan/c/22036524.epi> (2017年10月20日閲覧)  
 báo mới (「友人」)  
<https://www.baomoi.com/nhom-thien-nguyen-ung-ho-pho-bi-thu-doan-bi-nan-do-sua-nha-cho-dan-50-trieu-dong/c/23053834.epi> (2017年10月20日閲覧)  
 báo Nghệ An  
<http://www.baonghean.vn/xa-hoi/201606/hoi-dong-huong-nghe-an-o-dai-loan-to-chuc-gap-mat-thuong-nien-2706609/> (2017年10月20日閲覧)

## 謝辞

本研究は、JSPS 科研費 JP16K03237 の助成を受けたものです。

また、桃園の宿泊先で偶然出会った縁で教会に同行させてくれた川越道子氏（大阪市立大学人権問題研究センター特別研究員）には、この場を借りてお礼申し上げます。

<sup>i</sup> 魚の大量死は、フォルモサ・ハティン・スチールがハティン省の製鉄所の排水システム試運転過程での違反と事故に起因している。未処理の廃水が海に流出したことにより、毒素を含む化合物が形成され、魚を大量死させた結論づけられている。台湾フォルモサグループは賠償責任と再発防止の公約をしている。